

令和4年12月2日

報道機関各位

富山県は脳卒中と糖尿病の受療率と一人当たり医療費が全国平均より高い
～レセプト情報・特定健診等情報データベースから抽出された
医療費関連のデータ(NDB データ)分析より～

■ ポイント

- ・富山県内医療保険の被保険者約100万人を対象に、レセプト・健診情報データから抽出された医療費関連のデータ(NDB データセット)を分析
- ・全国と比べて脳卒中と糖尿病の受療率、医療費が多い
- ・65歳未満の保険者間の比較では、市町村国保群の脳卒中、糖尿病、虚血性心疾患の受療率は(国保組合及び被用者保険群に比べて)高く、逆に高血圧と脂質異常症での受療率が低い傾向

■ 概要

富山大学大学院博士課程の淵上貴正医師、地域連携推進機構地域医療・保健支援部門副部門長の山田正明准教授らのグループは、富山県保険者協議会の委託を受け、県内医療保険の被保険者104万8309人を対象に、レセプト情報・特定健診等情報データベースから抽出された医療費関連のデータ(NDB データセット)を分析しました(図1)。このデータは各都道府県で医療費適正化計画に活用するために、厚生労働省から県に提供されたものです。

5つの生活習慣病(糖尿病、高血圧、脳卒中、虚血性心疾患、脂質異常症)の受療率(患者数を被保険者人口で除したもの)および一人当たり年間医療費を算出し、年齢調整を行って全国平均と比較しました。脳卒中では全体の受療率で+3.9%、医療費では+4.2%とそれぞれ高いことがわかりました。また糖尿病についてもそれぞれ同+1.9%、+1.7%高い値でした(図2、3)。

次に上記の受療率と医療費を3種類の保険者種別(国保組合及び被用者保険、後期高齢者、市町村国保)に分けて分析した結果、75歳以上の後期高齢者群で脳卒中と糖尿病において全国平均より高い傾向がわかりました。

また、65歳未満の労働世代を対象に2つの保険者間(国保組合及び被用者保険 vs 市町村国保)で受療率の比較を行った結果、脳卒中、糖尿病、虚血性心疾患において市町村国保群の受療率が高い傾向にあり、逆に高血圧や脂質異常症では市町村国保群の受療率が低い結果でした(図4)。このことから、市町村国保群の労働世代の人は高血圧や高脂血症では受診せず、脳卒中や虚血性心疾患になってから受診をしているという可能性があります。

これらの結果から、全体としては脳卒中を減らすことが富山県の重点課題といえます。また、市町村国保群の労働世代に対して高血圧、高脂血症の受診を促すなどの各保険者の特徴を考慮した生活習慣病対策が、医療費適正化につながると期待されます。

■ 詳細

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB データ)を活用した生活習慣病、医療費分析(令和元年度データ)報告書 富山県保険者協議会受託事業

著者: 瀧上貴正 山田正明 関根道和

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学 地域連携推進機構 地域医療保健支援部門 准教授 山田正明

TEL : 076-434-7270 Email : masaakit@med.u-toyama.ac.jp

図1 年齢階級別にみた保険者区分と主な被保険者の構成(被扶養者を含む)

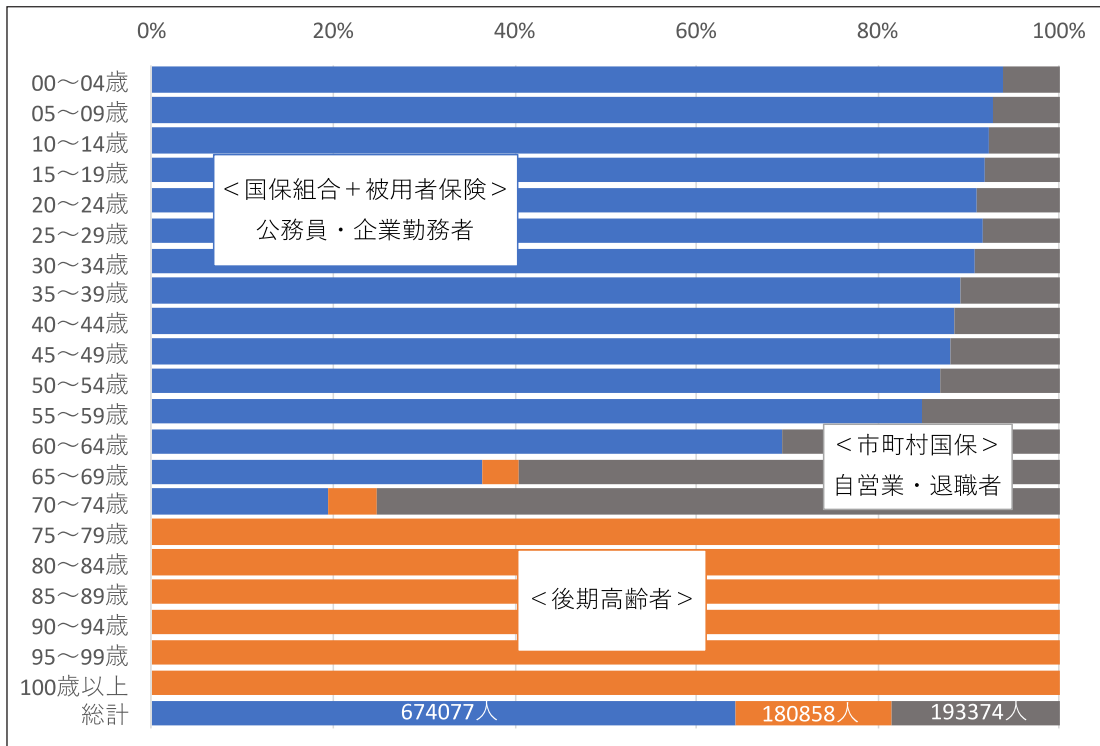


図2

富山県民の生活習慣病における受療率と一人当たり医療費(全国平均を1とする)

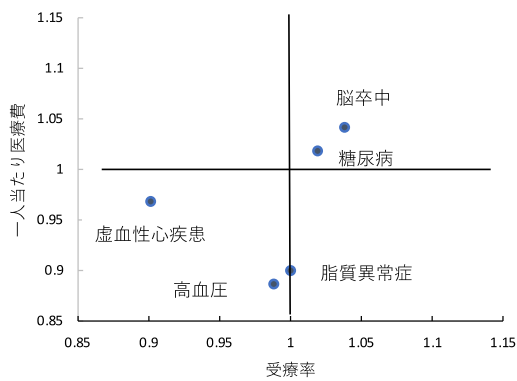


図3

富山県民の生活習慣病における受療率と一人当たり医療費(全国との比較)

	受療率	医療費	受療率比	医療費比
糖尿病	5.6%	14676円	101.9%	101.7%
高血圧	15.5%	22379円	98.9%	88.7%
脳卒中	2.9%	15888円	103.9%	104.2%
虚血性心疾患	2.0%	6634円	90.2%	96.7%
脂質異常症	5.4%	5602円	100.1%	89.9%

図4 受療率保険者間比較(国保組合および被用者保険を1とする)

